

# 平成27年度 学校関係者評価報告書

学校法人水野学園  
東京サイクルデザイン専門学校  
学校関係者評価委員会

学校法人水野学園 東京サイクルデザイン専門学校「学校関係者評価委員会」は、平成27年度自己点検・自己評価報告書に基づいて学校関係者評価を実施しましたので、以下の通り報告いたします。

1. 開催日 平成28年8月30日(火)

## 2. 学校関係者評価委員

- ・ 関連業界団体より  
松田 志行様 東京自転車製造卸協同組合 副理事長
- ・ 関連企業より  
後藤 秀雄様 株式会社 東部 取締役社長  
(代理として 株式会社東部 営業部長 後藤正樹様が参加)

## 3. 水野学園からの参加者

水野 倫理	東京サイクルデザイン専門学校	学校長
酒匂 博	東京サイクルデザイン専門学校	副校長
渡辺 勝	学校法人水野学園	教務部長
松山 英一	学校法人水野学園	総務部長

## 4. 評価方法および評価点について

- ・ 会則に基づき、学校関係者評価委員は、自己点検評価の結果を評価する。
- ・ 評価点は、学校関係者評価委員の評価点の平均値を表記した。  
★評価点基準・・・ 4=適切 3=ほぼ適切 2=やや不適切 1=不適切

5. 評価項目ごとの学校関係者評価

項目 1	教育理念・目的・育成人材像等		評価点平均	3.50
【現状】	1	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	1966年法人創立時に定められた「水野学園教育理念」に準拠して本学の教育理念、目的、育成人材像が設定されている。	
	2	学校の将来構想を抱いているか	毎月2回実施される「経営会議」において、構想および検討がなされている。	
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	前回のご指摘を受け、多校化に合わせて刷新した教育理念を学生便覧に掲載した。			
【関係者評価・意見等】	自己点検は、概ね適切と思われる。 即戦力の人材として、お客様との接点を考えて、社会人として、組織人としての人材育成に取り組んで欲しい。			

項目 2	学校運営		評価点平均	4.00
【現状】	3	経営方針に沿った事業計画は策定されているか	前年度末に翌年の運営方針、事業計画、運営予算を作成し、理事長・学校長の決済を受けた上で、評議委員会・理事会の承認を受けて執行している。本部各部門の責任者は、承認・決裁を受けた事業計画、運営予算に基づき、各部門の年度計画を定め、理事長、学校長の承認を受けて業務を執行している。	
	4	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、また有効に機能しているか	理事長、学校長、各部門長により、毎月2回「経営会議」を実施し、学校運営全般についての情報の共有ならびに意思決定を都度実施している。また、全教職員を対象とした「教職員会議」を年4回実施し、全教職員への運営方針の周知徹底を図っている。	
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	上記の通り、毎年しっかりと実行されている。 2015年度は、教員管理職・職員管理職による「教職員管理職会議」を創設し、教員側(教育)と学園本部(運営)の意思の疎通をより向上させ、教育設備等についての諸問題の検討を実施した。			
【関係者評価・意見等】	自己点検は、適切と思われる。			

項目 3	教育活動		評価点平均	4.00
【現状】	5	各コースのカリキュラムは体系的に編成されているか	各学年での目標レベルに到達するために、各コースとも体系的に編成されている。カリキュラム内容については日々活発に意見が交換されており、毎年見直され、学年を超えて多角的に検討されている。	
	6	授業評価の実施・評価体制はあるか	授業そのもの(個人の指導力に対する評価)については「ティーチング・アセスメント」を導入し、実際の授業を見学、改善点を指摘し相互評価を行っている。また学生による教員評価アンケートを9月に実施し、学生評価も教員にフィードバックしている。 教員指導力研修において、コンサルティング会社のノウハウを用い、教員としての強みと弱みを個々に分析し、指導者としての資質の向上に努めた。 年度末にはカリキュラム発表会を行い、成功した課題だけでなく、失敗した課題などを基に勉強会なども実施。併設校および他コースのカリキュラムを教員同士が評価し合う会となっている。	
	7	育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	学内に教育アドバイザーの職責をもった教員をおいている。	
	8	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	学則にて明記されており、筆記試験・実習課題成績により判定されている。	
	9	資格取得の指導体制はあるか	卒業後実務経験を経て取得できる「自転車安全整備士」資格に対して通常授業で指導体制が整っている。また、「スポーツバイクメカニック養成講座」の学内カリキュラム連動化について検討し、2016年度よりカリキュラムに取り入れることにした。	
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	<p>個々の課題については国内外からの外部招聘講師や企業連携なども実施。各コースの基礎技術習得に加え、より実践的かつ創造的なプログラムが実施できており、学生の学習意欲の向上につながっている。</p> <p>2015年度は鎌倉市の渋滞緩和を解消する自転車の提案や、自転車パーツ関連会社とのコラボによる商品開発など、実践的なプログラムを中心に行った。 今後も、地域背景のリサーチを深めたプログラムを企画していきたい。</p>			
【関係者評価・意見等】	<p>自己点検は、概ね適切と思われる。</p> <p>授業評価の実施・評価体制について、違う分野の教員同志が確認し合うような取り組みも有効なのではないか。学生の満足度がもちろん一番重要ではあるが、従業員(教員)満足度が学生満足度につながるものとして捉えて欲しい。</p>			

項目 4	学修成果		評価点平均	4.00
【現状】	10	就職率(卒業生就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか	2016年3月31日現在、全学科平均の求職者就職率は95.4%となり、例年通り95%以上となった。特に留学生位求職者就職率については100%を達成し、就職を希望する留学生は全員企業内定させることができた。	
	11	資格取得率の向上が図られているか	例年通り、全1年生に「ガス溶接技能講習」を、3年制課程2年生に「アーク溶接技能講習」を実施し、全員が講習終了して修了証の交付を受けた。また、2016年度に向けて、一般社団法人 日本自転車産業振興会の設定する「スポーツバイクメカニック養成講座」の学内カリキュラム連動化について検討を行なった。	
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	2015年度は、夏休みの企業インターンを実施し、職業実践教育をより推進するとともに、企業側の採用活動の促進を促し、結果として十分な成果を得ることができた。			
【関係者評価・意見等】	自己点検は、概ね適切と思われる。 就職率だけではなく、就業後の企業定着率の上昇が企業への信頼度につながると感じる。			

項目 5	学生支援		評価点平均	4.00
【現状】	12	就職・進学指導に関する体制は整備されているか	進路相談室主催のキャリアガイダンスを卒業前年度11月から実施し、業界知識や業種職種研究、求められる人材像の説明および自己分析を指導している。企業就職希望者に対しては、3月以降に就職活動のための具体的なノウハウ指導を行うと同時に、専用のWEBサイトにおいて求人公開を行っている。進学、留学に関しては、進路相談室においてすべて個別相談で対応している。	
	13	学生相談に関する体制は整備されているか	クラス担任と学科担当教務の連携により、学生の就学指導を実施している。クラス担任は主に学習面、ならびに進路面の相談を担当し、担当教務は生活面、または学費等経済面の相談窓口として機能している。それ以外にも、年間2回にわたる学生アンケートの実施や、学生が学校長に直接意見をメールできる制度の運用などを通し、より細かい学生の相談体制を構築している。	
	14	学生の経済的側面に対する支援体制が整備されているか	日本学生支援機構等、公的奨学金以外にも、家計の急変や転科による就学年数延長者に対しての水野学園独自の授業料減免制度などを設置運用している。また、学費の分納、延納などに対しても、学生個々の状況に応じて経理課にて個人相談に応じている。	
	15	学生の健康管理を担う組織体制が整備されているか	学校保健法に基づき、毎年5月に学内において全学生の健康診断を実施している。また、学内においての学生の急な傷病に対しても、保健室やAED装置の設置をはじめ、救急箱の完備や緊急搬送医院の一覧マニュアルなども完備している。教職員にも不定期ながら日本赤十字社の救急救命士講習を学内で実施し、学生の健康・安全管理に努めている。	
	16	保護者と適切に連携しているか	毎年2回、学生の出席率、課題提出状況、単位取得状況を、担任の個別コメントを添えて保護者に送付している。この際、保護者に学園全体の教育内容などについて理解を深めてもらうことを目的に「水野学園通信」という小冊子を作成・同封している。	
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	上記のとおり、学生支援体制は総じて十分に機能しており、問題なく運用されていると評価している。			
【関係者評価・意見等】	自己点検は、適切と思われる。大学は成績によって奨学金の適用が変わるが、成績は考慮しないと聞いて驚いている。災害時はもちろんのこと、現代の若者が多く抱えるココロの問題に対しても配慮して欲しいと感じる。			

項目 6	教育環境	評価点平均	4.00
【現状】	17	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	施設・設備の改修／修繕／交換／導入は年度ごとに計画的に整備をしている。 各教室ごとの責任者を決め、常に点検している。 教室以外の施設として、図書室・学生ホールなどの環境を整えており、年1回の学生アンケートの実施を活用し改善に努めている。
	18	防災に対する体制は整備されているか	学生対象／教職員対象の2種類の防災訓練を毎年実施。教職員対象の防災訓練においては、災害発生直後から宿泊するまでを想定した実践的な訓練を行っている。 防災マニュアルの作成・完備や緊急地震速報に対応したシステムの設置、3日分の非常食を完備するなど、防災体制を整えている。
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	上記の通り、施設・設備等の教育環境や防災体制は整備されていると評価している。		
【関係者評価・意見等】	自己点検は、適切と思われる。		

項目 7	学生の受入れ募集		評価点平均	4.00
【現状】	19	学生募集活動は、適正に行われているか	募集案内の記載内容については学生が明瞭に理解できるよう十分に配慮して作成している。募集内容は、稟議を経て理事長、学校長の決裁を受けて作成されているものであり、学内でのチェック体制は整備されている。資料請求者、入学志願者の相談内容はデータ管理され、個人情報に留意しつつ、適切な対応ができる体制が整っている。	
	20	入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか	AO入学については全員と面接、推薦入学および一般入学については入学願書・調査書の内容により、どちらも本校で学習することに対する意思の確かさ、粘り強く物事にとり組める姿勢を出願者の選考基準としている。留学生については全員と面接を実施し、日本語能力・学費等支払い能力を総合的に判断する。	
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	<p>適正に実施されている。</p> <p>18才人口の減少に伴い、大学生/社会人向けの広報活動も随時実施している。また、留学生の募集については、留日志向の強いアジア圏からの留学生を中心に広報活動を実施。主には中国、韓国、台湾から留学生を受け入れている。</p>			
【関係者評価・意見等】	自己点検は、適切と思われる。			



項目 8	財務		評価点平均	4.00
【現状】	21	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	予算は、前年度末に翌年の予算案を作成し、理事長・学校長の決済を受けた上で、評議委員会・理事会の承認を受けて決定している。本部各部門の責任者は、承認・決裁を受けた予算に基づき、各部門の年度計画を定め、理事長、学校長の承認を受けて、予算を管理・執行している。	
	22	財務について会計監査が適正におこなわれているか	顧問税理士の指導をうけながら適正な会計処理を行っている。毎年度(5月)、監事2名による会計監査を行っている。	
	23	財務情報公開の体制整備はできているか	関係者より財務諸表等の閲覧請求があった場合は、閲覧規定に則った対応ができる体制を整えている。	
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	上記のとおり、適正に管理・運営されていると評価している。			
【関係者評価・意見等】	自己点検は、適切と思われる。			

項目 9	法令の順守		評価点平均	4.00
【現状】	24	法令(個人情報保護含む)、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	総務部が「個人情報規定」など様々な規定に則り、法令順守についての総合的な管理にあたっている。個人情報保護については、教職員への説明会を実施し、規定は常時閲覧できる環境を整えている。顧問弁護士と契約しており、随時相談可能な体制を整えている。	
	25	自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	自己点検・自己評価委員会を設置し、問題点の改善に努めている。	
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	<p>学校教育法、私立学校法、学校保健法、税法等の法令を遵守して学校運営が適正に行われている。</p> <p>個人情報保護に関しては、定期的な講習会を実施する必要がある。</p> <p>自己点検・自己評価の結果については、ホームページを通して公開している。</p>			
【関係者評価・意見等】	<p>自己点検は、適切と思われる。</p> <p>制度は問題ないと思われるが、特に個人情報の漏洩問題に関しては、運用の部分での取りこぼしなどがないように努めて欲しい。</p>			

項目 10	国際交流		評価点平均	4.00
【現状】	26	留学生の受入れ・在籍管理等において適切な管理体制が整備されているか	教務部内に「留学生センター」を設置し、入学相談室留学生担当と連携のもと、在学する全留学生の在留資格管理をはじめ、資格外活動(アルバイト)状況の把握などに努めている。特に卒業年度生に対しては、進路相談室に留学生担当を設置し、留学生の国内外の就職支援を行っている。	
	27	グローバル人材の育成に向けた国際交流などの取り組みが行われているか	2015年度はモビリティデザイン分野において、米国ロードアイランド造形大学の教員 クラウディア・レボラ女史を招聘し、栃木県那須の外部研修施設において3日間の特別講義を実施した。「モノづくりにおけるリサーチの重要性」をテーマにし、「社会に貢献する製品(自転車)製作」について授業を行ない、その後学生は「働く自転車」をテーマに課題に取り組んだ。	
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	米国ロードアイランド造形大学は、NASA(米国航空宇宙局)と月面自転車の共同開発などを経験する、全米唯一の「自転車デザインと製作」カリキュラムを持つ大学である。2015年度は本校教員が同大学に招聘され特別授業を実施した。今後は同校との学生交流等も企画していきたい。			
【関係者評価・意見等】	自己点検は、適切と思われる。			